

## 高橋友子ディレクター逝去のお知らせ

高橋友子ディレクターが2007年10月31日、任期半ばにて急逝されました。2004年度より2期にわたり、ディレクターを務められ、女性学インスティテュートの活動・発展に多大なご尽力を頂きました。  
ここに謹んで、天上の平安をお祈り申し上げます。

## 編集後記

『女性学評論』の編集にはじめて参加させていただきました。障害者、貧困者、子ども…といった、所謂、社会的弱者と呼ばれる立場の人びとと実践活動をしていたにも拘らず、これまで、なぜか「ジェンダー」の問題に関しては、あたかも遠くの景色をぼんやりと眺めるかのようにしか見ていませんでした。これを機に、ジェンダースタディーズの世界にゆっくりと接近していきたいと思っています。(K. T.)

いろいろありましたが、なんとか発行にこぎつけることができました。関係諸氏のご尽力に感謝いたします。高橋先生のご逝去はあまりにも唐突で、言うべき言葉も見つかりませんが、いつも背筋をピンと伸ばしていた先生の姿を心に刻みつつ、女性学インスティテュートを盛り上げていけるように、気持ちを前向きにして進んで行きたいと思います。(M. K.)

今年度は「特集テーマ」なしでの発行となりました。女性学の裾野の広がり、アプローチの多様化の反映と前向きに捉えたいと思います。女性学も「啓蒙期」から「成熟期」へと移行したのだと。もっとも、テーマがないのはやはり寂しい気もします。次号は所員の皆さまから積極的なご提案をいただきたいと思います。2期に亘りディレクターを勤められた高橋先生の天上でのご平安を祈りつつ、、、(W. M.)

.....